

＜株式会社エフエム東京 第467回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和2年4月度

※新型コロナウイルス感染防止のため、ご参集頂かず、素材の郵送またはメール送付・レポート提出対応といたしました。

3. 委員の出席：委員総数6名（社外6名 社内0名）

◇レポート提出委員（6名）

ロバート キャンベル 委員長	内 館 牧 子 委員
秋 元 康 委員	川 上 未 映 子 委員
佐 々 木 俊 尚 委員	松 田 紀 子 委員

◇社側確認者（レポート確認者）（8名）

黒 坂 代表取締役社長
西 川 取締役副社長
小 川 常務取締役
内 藤 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局次長 兼 編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
石 井 報道・情報センター 部長

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

2. 番組試聴

【番組名】『TOKYO SLOW NEWS』 月曜～木曜 20:00～21:00

【放送日時】3月31日（火）、4月2日（木）放送のダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

※新型コロナウイルス拡散防止のため集合せず、
番組視聴のみで活動報告はなし

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『TOKYO SLOW NEWS』 月曜～木曜 20:00～21:00

【放送日時】

3月31日（火）、4月2日（木）放送のダイジェスト

【番組概要】

今回ご視聴いただくのは、2020年春の改編で3月30日(月)にスタートしたニュースワイド番組『TOKYO SLOW NEWS』の初週放送のダイジェストです。この番組は、「膨大な情報社会に“視点の転換”でニュースを聞く」をコンセプトに、SNS社会で日々氾濫するニュースへの新たな視点を提供し、丁寧に掘り下げてく報道番組です。メインパーソナリティはライター・編集者の速水健朗、毎週木曜は週替わりパートナーとして伊藤詩織（1・5週目）、堤未果（2週目）、カリン西村（3週目）、浜田敬子（4週目）、4人のジャーナリストが登場します。ニュースのどこを、どうつかんでいくのか？ 思い込みや勘違いから視点の転換を見つけられるか？ ラジオだからこそ丁寧に、じっくりとした掘り下げた情報をリスナーに届けていきます。番組は「3つの柱」となるコーナーで構成しています。

① アンゲルTODAY

毎日のストレートニュースと昨今のワントピックスを選んで解説するコーナー。

② SLOW NEWS REPORT

日本で調査報道を支援しているスローニュース(株)の協力のもと、ネットでも掘り下げた取材を続けるフロントラインプレスの記者達が、書ききれない裏側やリアルな現場を直接伝えます。

③ TOKYO FOLLOW UP

「視点のダイバーシティ」をテーマに、常識が転換する視点を持った企画や人を紹介していきます。

今回、お聴きいただくダイジェストの内容は、に新型コロナウイルス関連のニュースと、3月31日(火)に放送の「SNSによるデマの動向」をテーマにスローニュース(株)の瀬尾代表が過去の分析と最近の傾向について紹介した部分、4月2日(木)放送の、伊藤詩織(映像ジャーナリスト)が、「刑法改正と性的同意」をテーマに、2017年に改正された性犯罪に関する刑法の不十分な点の見直しが今年度中に検討されることになっていることについて、伊藤氏自身の経験と取材内容を紹介し、現在の課題とその意味について考えた部分となります。

◆出演者プロフィール

【キャスター】



速水健朗

ライター・編集者。1973年生まれ。メディア論、都市論からショッピングモールまで幅広いテーマで執筆。主な著作『東京どこに住む？ 住所格差と人生格差』『フード左翼とフード右翼 食で分断する日本人』など。

【木曜パートナー】



伊藤詩織(第1・5木曜)

映像ジャーナリスト。BBC、アルジャジーラなど、海外メディアで映像ニュースやドキュメンタリーを発信。性暴力被害についてのノンフィクション『Black Box』は、5ヶ国語で翻訳される。「2018年度ニューヨーク・フェスティバル」において、ディレクターを務めた日本の孤独死を扱った「Undercover Asia: Lonely Deaths」(チャンネルニュースアジア制作)がドキュメンタリー部門銀賞を受賞。



堤未果(第2木曜)

国際ジャーナリスト。ニューヨーク州立大学国際関係論学科卒業。ニューヨーク市立大学院国際関係論学科修士号。国連、アムネスティインターナショナル NY 支局員、米国野村證券を経て現職。米国を中心に政治、経済、医療、福祉、教育、エネルギー、農政など、徹底した現場取材と公文書分析による調査報道を続ける。2006年に「アメリカ弱者革命」で日本ジャーナリスト会議黒田清賞。2008年「ルポ貧困大国アメリカ」(3部作)で中央公論新書大賞。近著に「日本が売られる」(幻冬舎新書)「支配の構造」(SBC新書)など。



カリン西村(第3木曜)

フリージャーナリスト。フランスの新聞「リベラシオン」、週刊誌「Le Point」、仏公共ラジオグループ「RADIO FRANCE」とスイスのラジオ「RTS Info」の特派員。元AFP通信社の記者。311取材においては原発地域に赴くなど現場主義。「フランス人ママ記者、日本で子育てする」などのエッセイが人気。夫は漫画家の、じゃんぼーる西氏。夫が書くカリンさんを主人公にしたエッセイマンガも人気。



浜田敬子(第4木曜)

BUSINESS INSIDER JAPAN 統括編集長/AERA 元編集長

1989年朝日新聞社入社。99年AERA編集部。記者として女性の生き方や働く職場の問題、また国際ニュースなどを中心に取材。米同時多発テロやイラク戦争などは現地にて取材をする。2004年からはAERA副編集長。その後、AERA初の女性編集長に就任。2017年3月末で朝日新聞社退社。2017年4月より世界17カ国に展開するオンライン経済メディアの日本版統括編集長に就任。「羽鳥慎一モーニングショー」や「サンデーモーニング」などのコメンテーターや、「ダイバーシティ」や働き方改革についての講演なども行う。著書に『働く女子と罪悪感』(集英社)。

【委員の意見】

○偽情報と性犯罪刑法の見直しというきわめて重いテーマをコンパクトに概観しながらその道の専門家(当事者)を中心に据えた良心的レポート。調査報道の重視、「複雑なまま適度に伝えていく」という姿勢は貫いてほしい。

○デマの部分では知人から LINE やメッセージャーでダイレクトに来ると信じやすいというデータ、開かれた SNS だと通じている人々の目があり外から正すという傾向にあるとは身になる話。瀬尾さんが最後に「人々に合理的な選択肢を与えるべき」という発言から改善/解決への糸口が掴めそうで有益。佐藤卓己氏の本の紹介も良い情報提供。

○性犯罪では自ら当事者でもあると言う伊藤氏が淡々と、しかし情熱を感じさせる口調で一昨年の法改正と今度の見直し検討会設置のことを語っていて好印象。駅頭など公共の場で語り合うことで性犯罪へのタブー意識が解消される話など、やはりものごとをよくしていくための具体例が盛り込まれているのが番組の特徴に見えるが、大変良い方向性。一方、ひとつの答えがない、改善させる方途など容易に見出せない重要なニュースもあるので、それらもタイムリーに取り入れ伝えてほしい。

○速水氏は声のトーンも良く安定していて良いが、いささか安定し過ぎていると言うのでしょうか……相手がいうことを分かりやすく咀嚼して言い返す場面が多く、いちいち言い返しや説明をする必要はなく、むしろ話題を深めたり、斜めに運んだりする技量も磨いてほしい。

○情報が大量に膨れ上がっている中で、じっくりニュースを精査して、必要な情報だけに「減らして」伝えるというのはとても価値のあることで、良い番組だと思う。

○スマートニュース瀬尾氏と速水氏の語りは、落ち着いた雰囲気漂っていて、安心して聞ける。テレビのワイドショーが早口でまくしたてることによって逆に不安感を煽ってしまっているのに対し、こういうラジオ的な語り口は今の時代に求められているものではないか。

○ツイッターでは医療・健康情報のデマは減っている。これはデマを打ち消す人が多いから、という指摘は大事。ツイッターは荒れているところではあるものの、オープンな議論が可能で民主主義の公共圏の一部を担うようになってきていると私も考える。またメッセージャーやLINEはデマが打ち消されにくいので、広がりやすいという話もまさにその通りだと思った。またトイレットペーパーの買い占めが起きたことについても、人々がデマを信じたからではなく、「デマが拡散してるから買い占めが起きるかも。だったら買っておいたほうがいい」と冷静に対応した、というのもまさにその通り。このような話はツイッターなどネット上ではかなり議論されており合意もされている内容だが、その議論がマスメディア上ではほとんど発信されておらず、ネットとマスコミが分断されていることが浮かび上がってきている。この番組がその橋渡しをできるようになると良い。

○新しいTFMを象徴する番組になると感じた。ニュースをじっくり、深読みするという切り口はよくあると思うが、SNSで拡散する情報の信憑性、フェイクニュースから、何を読み解くか？はいい切り口。「Twitterでのデマは、今は、それを否定する自浄機能が作動していて、専門家などが糺してくれるが、むしろ、もっとパーソナルなLINEとかダイレクトメールでのデマは、より巧妙に人間関係の中で真実味を帯びて来る」という話は、この「TOKYO SLOW NEWS」ならではの発見。

○難点を言えば、新番組ということで、冒頭から、「番組のコンセプト」を説明する時間が長かったこと。抽象的にあれこれ書きを述べるより、惹きつける具体的なニュース解説を紹介した方が良かったと思う。クイズ番組でもゲーム番組でも、ダラダラとルール説明をするより、実際にクイズやゲームを見せてしまった方がわかりやすい。

○曲紹介はいらないと感じた。いいタイミングで曲が入って来る方が洒落ています。曲紹介をするなら、せいぜい、曲終わりがいいのでは。大切な話をしている、議論は尽きないのに、「それでは、ここで一曲」というのは間が抜けてしまうように思う。

○構成的に3つの柱を立てていますが、①アングル TODAY②SLOW NEWS REPORT③TOKYO FOLLOW UP と、3つのコーナーを毎週、成立させようとすると苦しくなるのでは。無理に分けているような気も。そんなコーナー分けより、面白いと思ったニュースをアトランダムに取り上げるだけの方が面白

い。ある時は、SNS から、ある時は、人物から、ある時は、誰かの発言からなど。何れにせよ、僕は面白くなりそうな番組だと思うので、予定調和に嵌らないように、頑張ってもらいたい。

○番組の趣旨が明確でわかりやすく、各週のパートナーも魅力的。速水氏の声も心地よく、すんなり入ってきた。しかし、パートナー全員が女性なのはなぜか？何か意図があつてのことなのだろうか。フェイクやコピペのような情報に慣れてしまっている今、**slow news** という価値が今後は高まってくると思う。

○今回のテーマは、「SNS によるデマの動向」と「刑法改正と性的同意」でしたが、どちらも、とっかかりは興味を持てる導入だったが、話の内容がうすく、「え？ もう終わり？」という印象が強かった。(ダイジェストなので仕方がない部分もあったかもしれないが) どの放送も、しっかり頭から最後まで聞きたいと思わせる魅力があつた。

○木曜日の 20 時からという時間帯は、多くの人々が週末をひかえ、多忙にしている時間帯とは思ふものの、情報が錯綜し価値観が大きく変化してきているこのコロナ時代には響く番組になると感じました。タイムリーさと、歯に衣着せぬ真っすぐな情報を期待する。

○要望としては、この時間帯のリスナーがどういうことに興味があるのか、何を知りたいのか、番組内でのやりとりがあると面白いと思う。番組のフォームから意見の書込みができるようだが、住所や郵便番号まで聞かれるとちょっと面倒くささを感じ、警戒してしまうのでは。まだ **Twitter** は活況とは言えない状況のようなので、この番組でのやりとりがタイムラインを制するような動きが生まれると、さらにこの番組の価値が高まると思う。

○全体が通して落ち着いた雰囲気、報道を軸にリスナーとともに考える、という点でとてもよかったと思う。個人的な受け取りかもしれないが、ナビゲーターの声に独特の聞きづらさがあつて、それが気になった。ひょっとして声の調子がよくなかったのか、あるいは、録音の状態の問題なのか、わからないが、全体を通して、ずっと気になった。プロアナウンサーではないと思うが、ひょっとすると発声練習なども検討の余地があるかもしれない。

○伊藤詩織氏との対話は興味深く、また意義深いものだったと思う。ただ、話の流れがよく言えばスムーズで、逆から言えば起伏がないので、途中で何の話

をしているのが、わからなくなってしまうときがあった。テーマの当事者を招いて、伊藤氏の個人的な見解や個人的な話をともすれば期待されるなかで、刑法そのものについて客観的な理解を示してゆく、というのは、たいへんに難しいことだと思う。けれど、そこにとどまるのではなく、被害者を消費させずにあくまで問題を提示してゆくのだ、という強い意志が伝わってきて、素晴らしいと思った。

○速水氏は落ち着いていてとてもいい声だと思う。そのせいか番組の格調を感じる。瀬尾氏も分かりやすく、落ち着いた語り段階だが、内容はやや高尚。万人をつかむには格調はあるものの地味な印象を受けた。テレビと違い映像がないので、どうやって掴むか考えどころだと思う。もっと聴かせる工夫が必要。

○今回視聴した伊藤詩織氏の回は、短いダイジェストで断定はできないが、トーンは柔らかいが、語尾が聞こえにくく、全体的にもごもご話している気がした。ニュースはもっとキビキビ、はっきりと活舌よく伝えないと、信じにくいのでは。伊藤氏にはアナウンス力がもう少し必要と思うので、鍛錬して欲しい。